資料２

鹿児島県地震等災害被害予測調査検討有識者会議（第６回）

生活への影響等の想定結果

<想定地震>

①鹿児島湾直下
②県西部直下
③甑島列島東方沖
④県北西部直下
⑤熊本県南部
⑥県北部直下
⑦南海トラフ
⑧種子島東方沖
⑨トカラ列島太平洋沖
⑩奄美群島太平洋沖（北部）
⑪奄美群島太平洋沖（南部）

令和8年10月28日

1. 被害想定予測手法の基本的な考え方

- 検討委員会の意見を踏まえ、最新の科学的知見、手法等を反映する。
  - 令和7年3月31日に公表された「南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討会」等の最新の知見を加味した想定を行うものとする。
  - 既往の国、都道府県による地震被害想定調査の手法を参考に必要に応じて更新する。
  - 平成28年熊本地震、令和6年能登半島地震等、近年国内で発生した地震の被害状況等の知見を反映する。
- 基本的な想定単位は250mメッシュとし、項目によって、市・区・地域等、個別（箇所別）等の単位で想定を行う。

2. 被害予測手法の変更点まとめ

※前回調査との変更点は赤字で記載

		前回調査手法	今回調査手法
人的被害	災害関連死	－	**最大避難者数の規模を踏まえて設定した推計式と、R6能登半島地震の実績値から推計※1**
ライフライン被害	都市ガス	製造設備被害と安全措置による停止により算定	変更なし※2
	LPガス	－	全半壊率より算定
	通信（固定・携帯）	固定電話は建物被害と電柱被害より算定 携帯電話は固定電話と電力の想定結果より算定	変更なし
生活への影響	帰宅困難者	中央防災会議（2013）より算定 ※東日本大震災の実態調査結果を使用	変更なし ※観光客の帰宅困難者数も算出
	医療機能支障	－	平常時在院患者数をベースに、医療機関建物被害率、ライフライン機能低下による医療機能低下率、転院を要する者の割合を乗じて算出する。 介護・高齢者福祉施設についても要検討。
	保健衛生・感染症・御遺体への対応等	－	定性評価
	各種生活サービス	－	定性評価

※1　前回委員会後に奥村委員より推計式のご提案をいただき、その内容に基づいて見直しを行った。
※2　前回調査では、停止基準を60kineとして設定していたが、事業者から情報提供された停止基準をそれぞれ用いることとした。

3. 災害関連死の見直し結果

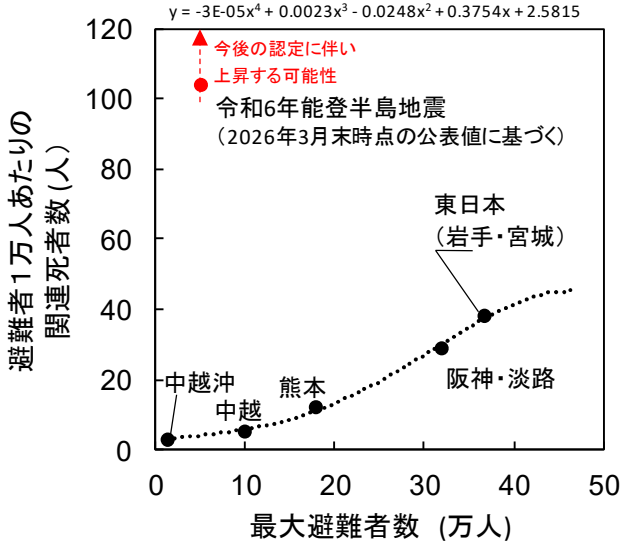
※ -:わずか(0は完全に0)
※ 被害想定の数値は概数であるため、ある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

人的被害:災害関連死の一覧(単位:人)

見直し結果

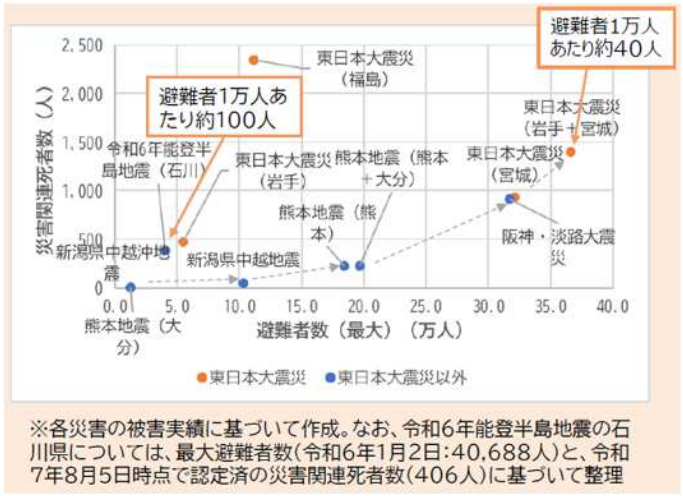
被災ケース 想定地震	季節・時刻	避難者数(1週間後)	1万人あたり関連死者数	関連死者数	(参考)1万人あたり100名の場合
①鹿児島湾直下	冬深夜	88,900	4.4	40	890
	夏12時	88,900	4.4	40	890
	冬18時	89,400	4.4	40	890
②県西部直下	冬深夜	62,600	3.2	20	630
	夏12時	62,600	3.2	20	630
	冬18時	62,900	3.2	20	630
③甑島列島東方沖	冬深夜	6,900	–	–	70
	夏12時	6,900	–	–	70
	冬18時	6,900	–	–	70
④県北西部直下	冬深夜	17,500	2.9	10	170
	夏12時	17,500	2.9	10	170
	冬18時	17,500	2.9	10	180
⑤熊本県南部	冬深夜	4,800	–	–	50
	夏12時	4,800	–	–	50
	冬18時	4,800	–	–	50
⑥県北部直下	冬深夜	510	–	–	10
	夏12時	510	–	–	10
	冬18時	510	–	–	10
⑦南海トラフ(地震動:基本ケース、津波:CASE11)	冬深夜	27,900	2.7	10	280
	夏12時	27,900	2.7	10	280
	冬18時	28,000	2.7	10	280
⑦南海トラフ(地震動:東側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	16,800	–	–	170
	夏12時	16,800	–	–	170
	冬18時	16,800	–	–	170
⑦南海トラフ(地震動:西側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	35,000	2.8	10	350
	夏12時	35,000	2.8	10	350
	冬18時	35,200	2.8	10	350
⑦南海トラフ(地震動:陸側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	37,000	2.7	10	370
	夏12時	37,000	2.7	10	370
	冬18時	37,100	2.7	10	370
⑧種子島東方沖	冬深夜	52,400	2.9	20	520
	夏12時	52,400	2.9	20	520
	冬18時	52,600	2.9	20	530
⑨トカラ列島太平洋沖	冬深夜	2,100	–	–	20
	夏12時	2,100	–	–	20
	冬18時	2,100	–	–	20
⑩奄美群島太平洋沖(北部)	冬深夜	9,600	–	–	100
	夏12時	9,600	–	–	100
	冬18時	9,700	–	–	100
⑪奄美群島太平洋沖(南部)	冬深夜	4,600	–	–	50
	夏12時	4,600	–	–	50
	冬18時	4,600	–	–	50

※1万人あたりの関連死者数は市町村ごとに計算のうえで関連死者数を算定している。上記の表における1万人あたりの関連死者数は、県合計の関連死者数(人)/県合計の避難者数(万人)として計算した数値であり、奥村委員ご提供の推計式において計算した数値とは一致しない。



注) 曝露人口として便宜上最大避難者数を用いているが, 関連死は必ずしも行政が把握している避難者からのみ発生するわけではない。

最大避難者数の規模を踏まえて設定した推計式
(奥村委員ご提供)
→こちらで推計したものを災害関連死者数として採用する。



※各災害の被害実績に基づいて作成。なお、令和6年能登半島地震の石川県については、最大避難者数(令和6年1月2日:40,688人)と、令和7年8月5日時点で認定済の災害関連死者数(406人)に基づいて整理

首都直下2025における災害関連死の原単位

→こちらで推計したものを上振れした場合の参考値として採用する。

- 災害関連死が最大となるのは、①鹿児島湾直下地震であった。
- なお、災害関連死の算定には、1週間後の避難者数を用いている。
- 災害関連死は、避難生活環境やライフラインの復旧状況などによって、基本的な試算値を大きく上回る犠牲者が発生することがある。

4. ライフライン被害の想定結果　①都市ガス

※　-:わずか(0は完全に0)
※　被害想定の数値は概数であるため、ある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

ライフライン被害:都市ガス被害の一覧

今回調査

被災ケース		需要家数(戸)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
想定地震	季節・時刻		供給停止戸数(戸)	供給停止率(%)	供給停止戸数(戸)	供給停止率(%)	供給停止戸数(戸)	供給停止率(%)	供給停止戸数(戸)	供給停止率(%)
①鹿児島湾直下	冬深夜	151,900	15,500	10	15,500	10	4,800	3	4,300	3
	夏12時		15,500	10	15,500	10	4,800	3	4,300	3
	冬18時		15,500	10	15,500	10	4,800	3	4,300	3
②県西部直下	冬深夜	151,900	9,000	6	–	–	–	–	–	–
	夏12時		9,000	6	–	–	–	–	–	–
	冬18時		9,000	6	–	–	–	–	–	–
③甑島列島東方沖	冬深夜	151,900	10,200	7	1,200	1	320	–	60	–
	夏12時		10,200	7	1,200	1	320	–	60	–
	冬18時		10,200	7	1,200	1	320	–	60	–
④県北西部直下	冬深夜	151,900	1,100	1	1,100	1	1,100	1	1,100	1
	夏12時		1,100	1	1,100	1	1,100	1	1,100	1
	冬18時		1,100	1	1,100	1	1,100	1	1,100	1
⑤熊本県南部	冬深夜	151,900	9,000	6	–	–	–	–	–	–
	夏12時		9,000	6	–	–	–	–	–	–
	冬18時		9,000	6	–	–	–	–	–	–
⑥県北部直下	冬深夜	151,900	0	0	0	0	0	0	0	0
	夏12時		0	0	0	0	0	0	0	0
	冬18時		0	0	0	0	0	0	0	0
⑦南海トラフ（地震動:基本ケース、津波:CASE11）	冬深夜	151,900	12,500	8	12,500	8	11,400	8	6,200	4
	夏12時		12,500	8	12,500	8	11,400	8	6,200	4
	冬18時		12,500	8	12,500	8	11,400	8	6,200	4
⑦南海トラフ（地震動:東側ケース、津波:CASE11）	冬深夜	151,900	12,500	8	12,500	8	3,000	2	520	–
	夏12時		12,500	8	12,500	8	3,000	2	520	–
	冬18時		12,500	8	12,500	8	3,000	2	520	–
⑦南海トラフ（地震動:西側ケース、津波:CASE11）	冬深夜	151,900	12,500	8	12,500	8	3,000	2	520	–
	夏12時		12,500	8	12,500	8	3,000	2	520	–
	冬18時		12,500	8	12,500	8	3,000	2	520	–
⑦南海トラフ（地震動:陸側ケース、津波:CASE11）	冬深夜	151,900	12,500	8	12,500	8	3,300	2	560	–
	夏12時		12,500	8	12,500	8	3,300	2	560	–
	冬18時		12,500	8	12,500	8	3,300	2	560	–
⑧種子島東方沖	冬深夜	151,900	11,300	7	11,300	7	2,900	2	510	–
	夏12時		11,300	7	11,300	7	2,900	2	510	–
	冬18時		11,300	7	11,300	7	2,900	2	510	–
⑨トカラ列島太平洋沖	冬深夜	151,900	10,200	7	10	–	10	–	10	–
	夏12時		10,200	7	10	–	10	–	10	–
	冬18時		10,200	7	10	–	10	–	10	–
⑩奄美群島太平洋沖（北部）	冬深夜	151,900	9,000	6	–	–	–	–	–	–
	夏12時		9,000	6	–	–	–	–	–	–
	冬18時		9,000	6	–	–	–	–	–	–
⑪奄美群島太平洋沖（南部）	冬深夜	151,900	9,000	6	–	–	–	–	–	–
	夏12時		9,000	6	–	–	–	–	–	–
	冬18時		9,000	6	–	–	–	–	–	–

前回調査

被災ケース		需要家数(戸)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
想定地震	季節・時刻		供給停止戸数(戸)	供給停止率(%)	供給停止戸数(戸)	供給停止率(%)	供給停止戸数(戸)	供給停止率(%)	供給停止戸数(戸)	供給停止率(%)
①鹿児島湾直下	冬深夜	164,100	23,900	15	5,600	3	3,400	2	–	–
	夏12時	167,900	25,600	15	7,400	4	5,200	3	–	–
	冬18時	165,900	25,200	15	7,000	4	4,800	3	–	–
②県西部直下	冬深夜	187,300	2,500	1	1,200	1	580	–	–	–
	夏12時	194,200	2,600	1	1,300	1	620	–	40	–
	冬18時	194,000	2,600	1	1,300	1	620	–	40	–
③甑島列島東方沖	冬深夜	200,600	0	0	0	0	0	0	0	0
	夏12時	200,600	0	0	0	0	0	0	0	0
	冬18時	200,600	0	0	0	0	0	0	0	0
④県北西部直下	冬深夜	200,900	1,300	1	520	–	420	–	0	0
	夏12時	200,900	1,300	1	520	–	420	–	0	0
	冬18時	200,900	1,300	1	520	–	420	–	0	0
⑤熊本県南部	冬深夜	202,300	170	–	160	–	100	–	0	0
	夏12時	202,300	170	–	160	–	100	–	0	0
	冬18時	202,300	170	–	160	–	100	–	0	0
⑥県北部直下	冬深夜	202,400	0	0	0	0	0	0	0	0
	夏12時	202,400	0	0	0	0	0	0	0	0
	冬18時	202,400	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦南海トラフ（地震動:基本ケース、津波:CASE11）	冬深夜	186,200	2,300	1	460	–	370	–	150	–
	夏12時	186,200	2,300	1	460	–	370	–	150	–
	冬18時	186,200	2,300	1	460	–	370	–	150	–
⑦南海トラフ（地震動:東側ケース、津波:CASE11）	冬深夜	195,300	1,800	1	440	–	360	–	140	–
	夏12時	195,300	1,800	1	440	–	360	–	140	–
	冬18時	195,300	1,800	1	440	–	360	–	140	–
⑦南海トラフ（地震動:西側ケース、津波:CASE11）	冬深夜	179,700	2,300	1	450	–	370	–	150	–
	夏12時	179,700	2,300	1	450	–	370	–	150	–
	冬18時	179,700	2,300	1	450	–	370	–	150	–
⑦南海トラフ（地震動:陸側ケース、津波:CASE11）	冬深夜	184,000	2,300	1	460	–	380	–	150	–
	夏12時	184,000	2,300	1	460	–	380	–	150	–
	冬18時	184,000	2,300	1	460	–	380	–	150	–
⑧種子島東方沖	冬深夜	183,100	4,300	2	1,400	1	510	–	–	–
	夏12時	183,100	4,300	2	1,400	1	510	–	–	–
	冬18時	183,100	4,300	2	1,400	1	510	–	–	–
⑨トカラ列島太平洋沖	冬深夜	202,000	510	–	500	–	430	–	170	–
	夏12時	202,000	510	–	500	–	430	–	170	–
	冬18時	202,000	510	–	500	–	430	–	170	–
⑩奄美群島太平洋沖（北部）	冬深夜	198,600	440	–	430	–	370	–	150	–
	夏12時	198,600	440	–	430	–	370	–	150	–
	冬18時	198,400	440	–	430	–	370	–	150	–
⑪奄美群島太平洋沖（南部）	冬深夜	201,900	120	–	0	0	0	0	0	0
	夏12時	201,900	120	–	0	0	0	0	0	0
	冬18時	201,900	120	–	0	0	0	0	0	0

- 都市ガスの被害が最大となるのは、①鹿児島湾直下地震であった。
- 前回調査と比較して、多くの地震で被害増の傾向となっている。
- 都市ガスの被害は製造所の位置、SIセンサーの位置によって大きく変動するため、前回調査との差異は基礎データとの差異によって発生していると考えられる。

4. ライフライン被害の想定結果　②LPガス

※　-:わずか(0は完全に0)
※　被害想定の数値は概数であるため、ある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

ライフライン被害:LPガス被害の一覧

今回調査

被災ケース		需要家数（戸）	被災直後	
想定地震	季節・時刻		要点検需要家数（戸）	供給停止率（%）
①鹿児島湾直下	冬深夜	529,100	23,500	4
	夏12時		23,500	4
	冬18時		23,600	4
②県西部直下	冬深夜	529,100	21,900	4
	夏12時		21,900	4
	冬18時		22,000	4
③甑島列島東方沖	冬深夜	529,100	3,900	1
	夏12時		3,900	1
	冬18時		3,900	1
④県北西部直下	冬深夜	529,100	7,100	1
	夏12時		7,100	1
	冬18時		7,100	1
⑤熊本県南部	冬深夜	529,100	2,300	-
	夏12時		2,300	-
	冬18時		2,300	-
⑥県北部直下	冬深夜	529,100	370	-
	夏12時		370	-
	冬18時		370	-
⑦南海トラフ（地震動:基本ケース、津波:CASE11）	冬深夜	529,100	20,300	4
	夏12時		20,300	4
	冬18時		20,300	4
⑦南海トラフ（地震動:東側ケース、津波:CASE11）	冬深夜	529,100	16,000	3
	夏12時		16,000	3
	冬18時		16,000	3
⑦南海トラフ（地震動:西側ケース、津波:CASE11）	冬深夜	529,100	22,100	4
	夏12時		22,100	4
	冬18時		22,200	4
⑦南海トラフ（地震動:陸側ケース、津波:CASE11）	冬深夜	529,100	23,800	4
	夏12時		23,800	4
	冬18時		23,800	4
⑧種子島東方沖	冬深夜	529,100	21,200	4
	夏12時		21,200	4
	冬18時		21,200	4
⑨トカラ列島太平洋沖	冬深夜	529,100	4,000	1
	夏12時		4,000	1
	冬18時		4,000	1
⑩奄美群島太平洋沖（北部）	冬深夜	529,100	11,300	2
	夏12時		11,300	2
	冬18時		11,300	2
⑪奄美群島太平洋沖（南部）	冬深夜	529,100	5,600	1
	夏12時		5,600	1
	冬18時		5,600	1

前回調査

算定なし

- LPガスの被害が最大となるのは、⑦南海トラフ巨大地震(陸側ケース・CASE11)であった。
- LPガス被害は全半壊棟数割合に依存するため、両者が多い上記の地震において最大となる。

4. ライフライン被害の想定結果　③通信(固定)

※　-:わずか(0は完全に0)
※　被害想定の数値は概数であるため、ある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

ライフライン被害:通信(固定)被害の一覧

今回調査

被災ケース		回線数(回線)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
想定地震	季節・時刻		不通回線数(回線)	不通回線率(%)	不通回線数(回線)	不通回線率(%)	不通回線数(回線)	不通回線率(%)	不通回線数(回線)	不通回線率(%)
①鹿児島湾直下	冬深夜	484,200	860	–	350	–	50	–	50	–
	夏12時		900	–	380	–	70	–	70	–
	冬18時		1,200	–	560	–	220	–	210	–
②県西部直下	冬深夜	484,200	1,400	–	1,000	–	80	–	20	–
	夏12時		1,400	–	1,000	–	90	–	30	–
	冬18時		1,600	–	1,100	–	160	–	100	–
③甑島列島東方沖	冬深夜	484,200	40	–	20	–	20	–	20	–
	夏12時		40	–	20	–	20	–	20	–
	冬18時		40	–	20	–	20	–	20	–
④県北西部直下	冬深夜	484,200	550	–	320	–	20	–	10	–
	夏12時		560	–	320	–	20	–	10	–
	冬18時		570	–	330	–	30	–	20	–
⑤熊本県南部	冬深夜	484,200	90	–	50	–	10	–	10	–
	夏12時		90	–	50	–	10	–	10	–
	冬18時		100	–	60	–	10	–	10	–
⑥県北部直下	冬深夜	484,200	–	–	–	–	–	–	0	0
	夏12時		–	–	–	–	–	–	0	0
	冬18時		–	–	–	–	–	–	0	0
⑦南海トラフ(地震動:基本ケース、津波:CASE11)	冬深夜	484,200	2,200	–	1,100	–	1,100	–	1,100	–
	夏12時		2,200	–	1,100	–	1,100	–	1,100	–
	冬18時		2,300	–	1,200	–	1,100	–	1,100	–
⑦南海トラフ(地震動:東側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	484,200	2,200	–	1,100	–	1,100	–	1,100	–
	夏12時		2,200	–	1,100	–	1,100	–	1,100	–
	冬18時		2,200	–	1,100	–	1,100	–	1,100	–
⑦南海トラフ(地震動:西側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	484,200	2,200	–	1,100	–	1,100	–	1,100	–
	夏12時		2,200	–	1,100	–	1,100	–	1,100	–
	冬18時		2,300	–	1,200	–	1,200	–	1,200	–
⑦南海トラフ(地震動:陸側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	484,200	2,300	–	1,200	–	1,100	–	1,100	–
	夏12時		2,300	–	1,200	–	1,100	–	1,100	–
	冬18時		2,400	–	1,200	–	1,100	–	1,100	–
⑧種子島東方沖	冬深夜	484,200	320	–	130	–	60	–	60	–
	夏12時		320	–	130	–	60	–	60	–
	冬18時		440	–	190	–	120	–	120	–
⑨トカラ列島太平洋沖	冬深夜	484,200	190	–	90	–	90	–	90	–
	夏12時		190	–	90	–	90	–	90	–
	冬18時		200	–	90	–	90	–	90	–
⑩奄美群島太平洋沖(北部)	冬深夜	484,200	1,400	–	820	–	620	–	610	–
	夏12時		1,400	–	820	–	620	–	610	–
	冬18時		1,400	–	850	–	640	–	630	–
⑪奄美群島太平洋沖(南部)	冬深夜	484,200	750	–	410	–	370	–	370	–
	夏12時		750	–	410	–	370	–	370	–
	冬18時		750	–	410	–	380	–	380	–

前回調査

被災ケース		回線数(回線)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
想定地震	季節・時刻		不通回線数(回線)	不通回線率(%)	不通回線数(回線)	不通回線率(%)	不通回線数(回線)	不通回線率(%)	不通回線数(回線)	不通回線率(%)
①鹿児島湾直下	冬深夜	473,900	550	–	30	–	30	–	30	–
	夏12時		720	–	30	–	30	–	30	–
	冬18時		3,400	1	40	–	30	–	30	–
②県西部直下	冬深夜	473,900	2,500	1	200	–	20	–	10	–
	夏12時		3,400	1	300	–	30	–	10	–
	冬18時		4,600	1	540	–	40	–	10	–
③甑島列島東方沖	冬深夜	473,900	230	–	120	–	120	–	120	–
	夏12時		230	–	120	–	120	–	120	–
	冬18時		230	–	120	–	120	–	120	–
④県北西部直下	冬深夜	473,900	420	–	–	–	–	–	0	0
	夏12時		530	–	–	–	–	–	0	0
	冬18時		720	–	10	–	–	–	0	0
⑤熊本県南部	冬深夜	473,900	100	–	10	–	10	–	10	–
	夏12時		120	–	10	–	10	–	10	–
	冬18時		120	–	10	–	10	–	10	–
⑥県北部直下	冬深夜	473,900	–	–	0	0	0	0	0	0
	夏12時		–	–	0	0	0	0	0	0
	冬18時		–	–	0	0	0	0	0	0
⑦南海トラフ(地震動:基本ケース、津波:CASE11)	冬深夜	473,900	2,900	1	1,500	–	1,500	–	1,500	–
	夏12時		2,900	1	1,500	–	1,500	–	1,500	–
	冬18時		2,900	1	1,500	–	1,500	–	1,500	–
⑦南海トラフ(地震動:東側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	473,900	2,900	1	1,500	–	1,500	–	1,500	–
	夏12時		2,900	1	1,500	–	1,500	–	1,500	–
	冬18時		2,900	1	1,500	–	1,500	–	1,500	–
⑦南海トラフ(地震動:西側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	473,900	2,900	1	1,500	–	1,500	–	1,500	–
	夏12時		2,900	1	1,500	–	1,500	–	1,500	–
	冬18時		2,900	1	1,500	–	1,500	–	1,500	–
⑦南海トラフ(地震動:陸側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	473,900	2,900	1	1,500	–	1,500	–	1,500	–
	夏12時		2,900	1	1,500	–	1,500	–	1,500	–
	冬18時		2,900	1	1,500	–	1,500	–	1,500	–
⑧種子島東方沖	冬深夜	473,900	670	–	120	–	120	–	120	–
	夏12時		650	–	120	–	120	–	120	–
	冬18時		980	–	130	–	120	–	120	–
⑨トカラ列島太平洋沖	冬深夜	473,900	330	–	170	–	170	–	170	–
	夏12時		330	–	170	–	170	–	170	–
	冬18時		330	–	170	–	170	–	170	–
⑩奄美群島太平洋沖(北部)	冬深夜	473,900	2,000	–	820	–	800	–	760	–
	夏12時		2,100	–	830	–	800	–	760	–
	冬18時		2,600	1	880	–	810	–	760	–
⑪奄美群島太平洋沖(南部)	冬深夜	473,900	1,200	–	640	–	640	–	600	–
	夏12時		1,200	–	640	–	640	–	600	–
	冬18時		1,400	–	650	–	640	–	600	–

- 通信(固定)の被害が最大となるのは、⑦南海トラフ巨大地震(陸側ケース・CASE11)であった。
- 前回調査と比較して、被害はやや減少の傾向にある。これは基礎データの差異と、建物被害の差、震度分布の差によるものである。

4. ライフライン被害の想定結果　③通信(携帯)

※　-:わずか(0は完全に0)
※　被害想定の数値は概数であるため、ある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

ライフライン被害:通信(携帯)被害の一覧

今回調査

被災ケース		被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
想定地震	季節・時刻	停波基地局率(%)	不通ランク	停波基地局率(%)	不通ランク	停波基地局率(%)	不通ランク	停波基地局率(%)	不通ランク
①鹿児島湾直下	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-
②県西部直下	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-
③甑島列島東方沖	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-
④県北西部直下	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-
⑤熊本県南部	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-
⑥県北部直下	冬深夜	-	-	-	-	-	-	0	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	0	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	0	-
⑦南海トラフ（地震動:基本ケース、津波:CASE11）	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-
⑦南海トラフ（地震動:東側ケース、津波:CASE11）	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-
⑦南海トラフ（地震動:西側ケース、津波:CASE11）	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-
⑦南海トラフ（地震動:陸側ケース、津波:CASE11）	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-
⑧種子島東方沖	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-
⑨トカラ列島太平洋沖	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-
⑩奄美群島太平洋沖（北部）	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-
⑪奄美群島太平洋沖（南部）	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-

前回調査

被災ケース		被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
想定地震	季節・時刻	停波基地局率(%)	不通ランク	停波基地局率(%)	不通ランク	停波基地局率(%)	不通ランク	停波基地局率(%)	不通ランク
①鹿児島湾直下	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	1	-	-	-	-	-	-	-
②県西部直下	冬深夜	1	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	1	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	2	-	1	-	-	-	-	-
③甑島列島東方沖	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-
④県北西部直下	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-
⑤熊本県南部	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-
⑥県北部直下	冬深夜	-	-	-	-	0	-	0	-
	夏12時	-	-	-	-	0	-	0	-
	冬18時	-	-	-	-	0	-	0	-
⑦南海トラフ（地震動:基本ケース、津波:CASE11）	冬深夜	1	-	1	-	1	-	1	-
	夏12時	1	-	1	-	1	-	1	-
	冬18時	1	-	1	-	1	-	1	-
⑦南海トラフ（地震動:東側ケース、津波:CASE11）	冬深夜	1	-	1	-	1	-	1	-
	夏12時	1	-	1	-	1	-	1	-
	冬18時	1	-	1	-	1	-	1	-
⑦南海トラフ（地震動:西側ケース、津波:CASE11）	冬深夜	1	-	1	-	1	-	1	-
	夏12時	1	-	1	-	1	-	1	-
	冬18時	1	-	1	-	1	-	1	-
⑦南海トラフ（地震動:陸側ケース、津波:CASE11）	冬深夜	1	-	1	-	1	-	1	-
	夏12時	1	-	1	-	1	-	1	-
	冬18時	1	-	1	-	1	-	1	-
⑧種子島東方沖	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-
⑨トカラ列島太平洋沖	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-
⑩奄美群島太平洋沖（北部）	冬深夜	1	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	1	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	1	-	-	-	-	-	-	-
⑪奄美群島太平洋沖（南部）	冬深夜	-	-	-	-	-	-	-	-
	夏12時	-	-	-	-	-	-	-	-
	冬18時	-	-	-	-	-	-	-	-

- 通信(携帯)の被害はほとんど発生せず、停波基地局率は1%未満、不通ランクは支障なしの結果であった。

※一部の市町村において、停波基地局率が20%を超える地震もあったが、不通ランクはすべての市町村・すべての地震において支障なしとの結果になった。

- 前回調査と比較して、電灯軒数が増加しているため、電力の被害割合が減少し、通信(携帯)の被害も減少したものと考えられる。

5. 生活への影響等の想定結果　①帰宅困難者

※　-:わずか(0は完全に0)
※　被害想定の数値は概数であるため、ある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

生活への影響等:帰宅困難者数の一覧(単位:人)

今回調査

市町村名	外出者(就業者・通学者)数(人)	帰宅困難者数(人)	帰宅困難の可能性がある観光客数	
			国内	国外
鹿児島市	344,500	12,100	20,900	
鹿屋市	58,200	3,100	1,600	
枕崎市	11,400	1,200	700	
阿久根市	10,700	1,300	550	
出水市	31,000	2,200	840	
指宿市	22,800	2,000	4,000	
西之表市	9,400	240	930	
垂水市	7,600	750	2,100	
薩摩川内市	53,900	3,500	1,600	
日置市	28,000	3,800	1,700	
曽於市	19,300	1,800	1,100	
霧島市	70,100	4,800	8,000	
いちき串木野市	16,400	2,000	930	
南さつま市	18,000	1,900	1,100	
志布志市	17,200	1,300	560	
奄美市	24,700	470	1,000	
南九州市	19,600	2,000	2,200	
伊佐市	13,900	990	1,000	
姶良市	44,300	5,500	920	
三島村	290	-	10	
十島村	520	-	10	
さつま町	12,400	1,100	630	市町別の統計情報なし
長島町	6,300	530	470	
湧水町	4,800	710	570	
大崎町	7,500	790	520	
東串良町	3,900	390	20	
錦江町	3,800	300	240	
南大隅町	3,600	200	610	
肝付町	8,000	720	200	
中種子町	4,900	220	100	
南種子町	3,700	140	430	
屋久島町	7,400	10	1,400	
大和村	750	50	110	
宇検村	870	40	10	
瀬戸内町	4,400	100	310	
龍郷町	3,500	260	360	
喜界町	4,000	10	30	
徳之島町	6,000	150	20	
天城町	3,400	150	300	
伊仙町	3,600	180	100	
和泊町	4,200	90	250	
知名町	3,600	70	20	
与論町	3,400	10	70	
合計	925,700	57,100	58,500	1,700

前回調査

市町村名	外出者(就業者・通学者)数(人)	帰宅困難者数(人)
鹿児島市	287,900	14,700
鹿屋市	45,100	3,000
枕崎市	9,300	1,000
阿久根市	8,900	1,400
出水市	22,900	2,600
指宿市	16,500	1,600
西之表市	6,500	170
垂水市	5,700	670
薩摩川内市	44,500	3,900
日置市	19,200	2,500
曽於市	12,600	3,100
霧島市	57,600	5,200
いちき串木野市	12,800	1,800
南さつま市	15,600	2,200
志布志市	13,400	2,000
奄美市	19,800	440
南九州市	14,700	1,900
伊佐市	11,000	850
姶良市	25,500	2,300
三島村	180	-
十島村	230	10
さつま町	9,900	1,200
長島町	2,900	330
湧水町	3,700	810
大崎町	4,900	600
東串良町	1,900	260
錦江町	2,600	260
南大隅町	2,600	180
肝付町	5,400	510
中種子町	3,100	240
南種子町	2,300	180
屋久島町	5,500	40
大和村	460	20
宇検村	850	70
瀬戸内町	3,500	110
龍郷町	2,000	170
喜界町	2,900	20
徳之島町	4,800	280
天城町	2,100	160
伊仙町	1,700	80
和泊町	2,500	100
知名町	2,500	90
与論町	1,800	-
合計	719,900	57,300

- 帰宅困難者は全県で約5万7千人発生する見込みである。前回調査と同規模の結果となった。
- 今回調査においては、これに追加し、帰宅困難となる可能性がある観光客数についても整理を行った。
- なお、国内の観光客数は、デジタル観光統計オープンデータ(公益社団法人日本観光振興協会)における令和6年の年間平均データを用いた。国外からの観光客数は、令和6年鹿児島県の観光の動向～鹿児島県観光統計～(鹿児島県)を用いた。
- 鹿児島県においては国内の観光客数は8月が最大であり、8～11月ごろの観光客数が多い傾向にある。一方、国外の観光客数は11月が最大であり、10～12月ごろの観光客数が多い傾向にある。これらの期間の特に休日においては、観光客における帰宅困難が多くなると考えられ、土地勘のない観光客に対する対策が必要となる。

※観光客など人流の推移については参考資料を参照

5. 生活への影響等の想定結果　②医療機能支障

※　-:わずか(0は完全に0)
※　被害想定の数値は概数であるため、ある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

生活への影響等:医療機能支障(不足)数の一覧(単位:人)

今回調査

被災ケース		需要量		不足数	
想定地震	季節・時刻	入院	外来	入院	外来
①鹿児島湾直下	冬深夜	410	1,900	0	0
	夏12時	360	1,500	0	0
	冬18時	390	1,600	0	0
②県西部直下	冬深夜	930	2,400	0	0
	夏12時	720	1,800	0	0
	冬18時	780	1,900	0	0
③甑島列島東方沖	冬深夜	180	320	0	0
	夏12時	150	260	0	0
	冬18時	150	270	0	0
④県北西部直下	冬深夜	290	1,200	0	0
	夏12時	220	880	0	0
	冬18時	240	960	0	0
⑤熊本県南部	冬深夜	120	370	0	0
	夏12時	100	290	0	0
	冬18時	110	320	0	0
⑥県北部直下	冬深夜	–	–	0	0
	夏12時	–	–	0	0
	冬18時	–	–	0	0
⑦南海トラフ(地震動:基本ケース、津波:CASE4)	冬深夜	290	980	0	0
	夏12時	290	890	0	0
	冬18時	300	920	0	0
⑦南海トラフ(地震動:東側ケース、津波:CASE4)	冬深夜	260	670	0	0
	夏12時	260	640	0	0
	冬18時	280	660	0	0
⑦南海トラフ(地震動:西側ケース、津波:CASE4)	冬深夜	310	1,200	0	0
	夏12時	300	1,100	0	0
	冬18時	320	1,100	0	0
⑦南海トラフ(地震動:陸側ケース、津波:CASE4)	冬深夜	370	1,700	0	0
	夏12時	350	1,400	0	0
	冬18時	370	1,500	0	0
⑦南海トラフ(地震動:基本ケース、津波:CASE5)	冬深夜	360	980	0	0
	夏12時	340	870	0	0
	冬18時	350	900	0	0
⑦南海トラフ(地震動:東側ケース、津波:CASE5)	冬深夜	330	670	0	0
	夏12時	310	620	0	0
	冬18時	330	630	0	0
⑦南海トラフ(地震動:西側ケース、津波:CASE5)	冬深夜	380	1,200	0	0
	夏12時	350	1,000	0	0
	冬18時	370	1,100	0	0
⑦南海トラフ(地震動:陸側ケース、津波:CASE5)	冬深夜	440	1,700	0	0
	夏12時	400	1,400	0	0
	冬18時	420	1,500	0	0
⑦南海トラフ(地震動:基本ケース、津波:CASE11)	冬深夜	350	970	0	0
	夏12時	320	850	0	0
	冬18時	340	870	0	0
⑦南海トラフ(地震動:東側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	320	650	0	0
	夏12時	290	590	0	0
	冬18時	310	610	0	0
⑦南海トラフ(地震動:西側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	370	1,200	0	0
	夏12時	330	1,000	0	0
	冬18時	350	1,000	0	0
⑦南海トラフ(地震動:陸側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	430	1,700	0	0
	夏12時	380	1,400	0	0
	冬18時	400	1,500	0	0
⑧種子島東方沖	冬深夜	290	1,600	0	0
	夏12時	250	1,300	0	0
	冬18時	270	1,400	0	0
⑨トカラ列島太平洋沖	冬深夜	120	210	0	0
	夏12時	130	200	0	0
	冬18時	130	210	0	0
⑩奄美群島太平洋沖(北部)	冬深夜	370	740	0	0
	夏12時	250	470	0	0
	冬18時	270	520	0	0
⑪奄美群島太平洋沖(南部)	冬深夜	190	270	0	0
	夏12時	130	200	0	0
	冬18時	140	210	0	0

地域	市町村名	最大被災ケース		需要量		不足数	
		地震動×津波	季節、時間	入院	外来	入院	外来
鹿児島	鹿児島市	①鹿児島湾直下	冬深夜	290	1,500	0	0
	日置市	②県西部直下	冬深夜	420	970	180	830
	いちき串木野市	②県西部直下	冬深夜	320	730	180	640
	三島村	⑦南海トラフ(地震動:基本ケース、津波:CASE5)	冬18時	–	–	–	–
	十島村	⑨トカラ列島太平洋沖	冬深夜	–	–	–	–
南薩	枕崎市	⑦南海トラフ(地震動:西側ケース、津波:CASE11)	夏12時	–	10	0	0
	指宿市	⑦南海トラフ(地震動:西側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	20	60	0	0
	南さつま市	⑦南海トラフ(地震動:西側ケース、津波:CASE5)	冬18時	10	20	0	0
	南九州市	①鹿児島湾直下	冬深夜	–	40	0	0
北薩	阿久根市	④県北西部直下	冬深夜	50	230	0	160
	出水市	④県北西部直下	冬深夜	230	880	0	730
	薩摩川内市	③甑島列島東方沖	冬深夜	90	150	0	0
	さつま町	⑦南海トラフ(地震動:陸側ケース、津波:CASE4)	冬深夜	–	50	0	0
	長島町	⑤熊本県南部	冬深夜	50	180	50	180
姶良・伊佐	霧島市	⑦南海トラフ(地震動:基本ケース、津波:CASE11)	冬18時	20	90	0	0
	伊佐市	⑦南海トラフ(地震動:陸側ケース、津波:CASE4)	冬深夜	10	140	0	70
	姶良市	⑦南海トラフ(地震動:基本ケース、津波:CASE11)	冬18時	10	50	0	0
	湧水町	⑦南海トラフ(地震動:陸側ケース、津波:CASE4)	冬深夜	10	120	0	100
大隅	鹿屋市	⑧種子島東方沖	冬深夜	10	220	0	0
	垂水市	①鹿児島湾直下	冬深夜	30	220	–	200
	曽於市	⑦南海トラフ(地震動:陸側ケース、津波:CASE4)	冬深夜	50	450	0	390
	志布志市	⑧種子島東方沖	冬深夜	70	410	20	390
	大崎町	⑦南海トラフ(地震動:陸側ケース、津波:CASE11)	冬深夜	–	60	–	60
	東串良町	⑦南海トラフ(地震動:東側ケース、津波:CASE4)	冬深夜	–	20	–	20
	錦江町	⑧種子島東方沖	冬18時	–	20	0	0
	南大隅町	⑦南海トラフ(地震動:西側ケース、津波:CASE11)	冬18時	–	–	–	–
	肝付町	⑧種子島東方沖	冬深夜	10	100	0	80
熊毛	西之表市	⑦南海トラフ(地震動:西側ケース、津波:CASE5)	冬18時	20	30	0	0
	中種子町	⑧種子島東方沖	冬深夜	10	120	10	120
	南種子町	⑧種子島東方沖	冬深夜	10	80	–	70
	屋久島町	⑦南海トラフ(地震動:基本ケース、津波:CASE5)	冬深夜	20	20	0	–
大島	奄美市	⑩奄美群島太平洋沖(北部)	冬深夜	160	270	0	100
	大和村	⑦南海トラフ(地震動:基本ケース、津波:CASE5)	冬深夜	–	–	–	–
	宇検村	②県西部直下	冬18時	–	–	–	–
	瀬戸内町	⑩奄美群島太平洋沖(北部)	冬深夜	30	50	0	20
	龍郷町	⑩奄美群島太平洋沖(北部)	冬深夜	20	60	20	60
	喜界町	⑩奄美群島太平洋沖(北部)	冬深夜	110	300	80	280
	徳之島町	⑪奄美群島太平洋沖(南部)	冬深夜	90	110	0	60
	天城町	①鹿児島湾直下	冬深夜	–	–	–	–
	伊仙町	⑪奄美群島太平洋沖(南部)	冬深夜	–	10	–	10
	和泊町	⑪奄美群島太平洋沖(南部)	夏12時	–	–	–	–
	知名町	⑦南海トラフ(地震動:基本ケース、津波:CASE5)	夏12時	–	–	0	0
	与論町	⑦南海トラフ(地震動:基本ケース、津波:CASE11)	冬18時	–	10	0	0

前回調査

算定なし

- 県全体の入院・外来需要に対し、県全体の供給可能数が上回るため、医療機能不足数が発生する地震・ケースはなかった。
- ただし、市町村別でみると、最大で、日置市において②県西部直下地震(冬深夜強風)において、830人の不足が発生する。
- 市町村において医療の供給が不足する場合には、近隣の他市町村への輸送が必要となる。

5. 生活への影響等の想定結果　③保健衛生・感染症・御遺体への対応等

	発災直後～3日後	～1週間後	～1か月後	1か月後～
保健衛生・医療	• 沿岸部や離島部では津波や地震被害により医療機関が被災し、診療機能が低下する。 • 道路寸断や港湾機能低下により、特に大隅半島南部、離島地域では医薬品や衛生資材の供給が滞る。 • 避難所では断水や停電の発生により、手洗い、水洗トイレ、入浴等の衛生環境が急速に悪化する。 • 夏季に発災した場合は、高温多湿な気候の影響により熱中症リスクが高まる。 • 高齢者、人工透析患者、在宅医療利用者等に対する医療支援ニーズが急増する。	• 避難者の健康状態が徐々に悪化し、脱水、栄養不足、睡眠障害、慢性疾患の増悪が増加する。 • 仮設トイレの不足や清掃体制の不十分さから、不衛生な環境が継続する。 • 桜島降灰地域では、地震被害に加え降灰の影響による呼吸器症状や眼疾患への配慮が必要となる。 • 保健師等による巡回健康相談需要が増加する。	• 避難生活の長期化に伴い、高齢者を中心として生活不活発病、フレイル、深部静脈血栓症（エコノミークラス症候群）等の健康被害が増加する。 • 精神的ストレスの蓄積により、不眠、不安、抑うつ症状等が顕在化する。 • 在宅介護サービスや障害福祉サービスの停止・縮小が利用者の健康状態悪化を招く。 • 断水解消後も衛生環境の回復には時間を要し、継続的な保健活動が必要となる。	• 仮設住宅等への移行後、高齢者の孤立や健康状態の悪化が課題となる。 • 離島や中山間地域では医療・介護資源の不足が顕在化し、慢性的な健康管理支援が必要となる。 • 被災体験に起因するPTSD（心的外傷後ストレス障害）、うつ症状、アルコール依存等の精神保健上の問題が発生する。 • 保健師や地域包括支援センター等による継続的な見守り活動が必要となる。
感染症	• 避難所の過密化、断水による衛生状態の悪化に伴い、感染症発生リスクが高まる。 • 手指衛生の確保が困難となり、胃腸炎等の感染性疾患が発生しやすくなる。 • 避難生活の長期化が見込まれる地域では、初期段階から感染症対策資材の不足が懸念される。	• 避難所においてインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、感染性胃腸炎等の集団感染リスクが高まる。 • 夏季に発災した場合は、食品衛生環境が悪化し、食中毒発生リスクが高まる。 • 浸水地域では汚泥や汚水への接触機会が増加し、衛生管理上の課題が発生する。	• 避難所や応急仮設住宅への移行過程で感染症対策の継続が課題となる。 • 鹿児島県の温暖な気候条件から、蚊やハエ等の衛生害虫の発生が増加し、生活環境の悪化要因となる。 • 浸水区域では廃棄物処理の遅れに伴う悪臭や衛生問題が発生する。	• 大規模な感染症流行のリスクは低下する一方、高齢者施設や集団生活環境における感染対策の継続が必要となる。 • 災害廃棄物処理や復旧工事に伴う粉じん対策、衛生管理が継続的な課題となる。
御遺体への対応等	• 津波被災地域では多数の死者・行方不明者が同時発生し、警察、消防、自治体による収容活動が集中する。 • 道路寸断や燃料不足により、ご遺体の搬送が遅延する。 • 安置施設の収容能力を超える可能性があり、公共施設等を活用した臨時安置所の設置が必要となる。 • 離島では検視・身元確認体制の確保に時間を要する。	• ご遺体数の増加に対して火葬能力が不足し、火葬待機が発生する。 • 県内火葬場の被災や燃料不足により、他県との調整が必要となる。 • 身元不明遺体の確認作業が本格化し、家族等の安否確認活動と並行して対応が進められる。 • 漁港や沿岸部では捜索活動が継続される。	• 大半のご遺体について火葬・埋葬が進む一方、身元不明者の確認作業が継続する。 • 行方不明者の捜索活動が広域的に継続される。 • 遺族への心理的ケアや生活再建支援の重要性が高まる。	• 身元不明遺体の確認作業や行方不明者の捜索が長期化する可能性がある。 • 遺族支援、慰霊事業、こころのケアなど、中長期的な支援が必要となる。 • 離島を含む県内各地域で、地域コミュニティ再建とあわせた心理社会的支援が継続する。

5. 生活への影響等の想定結果　④各種生活サービス

	発災直後～3日後	～1週間後	～1か月後	1か月後～
移動手段の不足	• 地震や津波により道路、鉄道、港湾等が被災し、県内各地で移動手段が不足する。 • 大隅半島や離島地域では道路寸断や航路・航空路の運休により孤立状態が発生するおそれがある。 • 燃料不足や交通規制により、通勤、通学、通院等の日常的な移動が困難となる。	• 一部路線の運行再開や道路啓開が進む一方、被害の大きい地域では移動制約が継続する。 • 離島航路や航空路の運航制限により、人員や物資の移動に支障が生じる。 • 郵便や宅配便等の生活関連サービスに遅延が発生する。	• 主要交通網は段階的に復旧するものの、離島地域や被害の大きい地域では移動制約が継続する。 • 路線バスや航路の減便等により、高齢者を中心に日常生活への影響が生じる。 • 物流機能の回復に地域差が生じる。	• 復旧工事等に伴う交通規制や運行制限が継続する場合がある。 • 離島や中山間地域では交通サービスの回復に時間を要する。 • 利用者減少等により、一部交通事業者の経営悪化が懸念される。 • 屋久島、奄美群島、霧島、指宿等の観光地では観光客の減少により地域経済への影響が長期化するおそれがある。
教育・子育て等	• 学校施設の被災や避難所としての利用により、臨時休校が発生する。 • 保育所や認定こども園等においても休園や受入制限が生じる。 • 保護者の被災や避難により、児童生徒の生活環境が不安定となる。	• 避難所として利用されている学校では、授業再開の見通しが立たない場合がある。 • 教材や学用品の不足により、教育活動に支障が生じる。 • 子どもの不安感やストレスが高まり、心理的ケアが必要となる。	• 仮設校舎の利用や代替施設での授業が開始される。 • 学習の遅れや教育環境の格差が課題となる。 • 離島部では学校の避難所利用が長期化し、教育活動への影響が継続するおそれがある。	• 被災による転居等に伴い、児童生徒数の変動が生じる。 • 子どもに対する継続的な心のケアや学習支援が必要となる。 • 子育て世帯の生活再建状況により、教育環境への影響が長期化する。
行政サービス等の停止	• 自治体庁舎や公共施設の被災により、各種行政サービスが停止又は縮小する。 • 被災状況の把握や避難所運営が優先され、通常業務の継続が困難となる。 • 離島自治体では通信障害や交通途絶により、行政機能の確保に時間を要する。	• 罹災証明書の発行や各種支援制度の申請が集中し、窓口業務がひっ迫する。 • 応援職員の受入れや災害対応業務により、通常行政サービスの縮小が継続する。 • 小規模自治体では職員不足が顕在化する。	• 被災者支援や復旧業務が本格化し、行政需要が増大する。 • 被害認定調査や各種支援手続きに時間を要する。 • 復旧・復興業務への対応により、通常業務への影響が継続する。	• 復旧・復興事業の増加に伴い、行政需要の高い状態が継続する。 • 離島や小規模自治体では人材不足による行政負担の増加が続く。 • 人口流出や地域コミュニティの縮小が行政運営上の課題となる。